

特集

食と心理学

クリスマスディナー，年越しそば，おせち料理，七草粥……，年末年始には美味しいお料理に舌鼓を打たれた方が多かったのではないのでしょうか。私たちにとって「食」は大きな関心事の一つであり，テレビや雑誌ではグルメ特集など食に関する話題がさかんに扱われています。また，現代の食に対する関心の高まりとともに，教育現場では子どもたちへの「食育」の重要性が指摘されたり，医療現場では QOL 向上の観点から，嚥下障害のために従来は経口摂取の適用でなかった患者さんに対しても，口から食べることを少しでも楽しんでもらおうと，嚥下機能リハビリテーションが積極的に実施されたりするようになりました。他方，食品添加物や食中毒，最近では食物への放射性物質の混入など，食の安全性に関する問題にも高い社会的関心が寄せられています。こうしたなか，心理学においては食と関連してどのような研究が展開されているのでしょうか。今回の特集では，私たちにとってたいへん身近な「食」にまつわる心理学について，ご専門の異なる 5 名の先生方に解説していただきました。

(柴崎光世)